令和５年度　第２回半田市市民チャレンジ協働プラン推進委員会

| | |
|---|---|
| 開催日時 | 令和５年７月３１日　１４時～１６時 |
| 開催場所 | 市民交流センター　ミーティングルーム A/B |
| 次　第 | １．議題<br>（１）チャレンジ 2030 の協働の視点による意見交換について<br>①「食品ロス削減」：環境課<br>②「キャリア教育」：学校教育課<br>（２）協働事業評価について<br>①「あかちゃんとしょかん」：図書館<br>（３）委員会に関する意見交換について<br>２．その他<br>（１）今後のスケジュールについて |
| 出 席 者<br>(敬称略) | ＜委員＞<br>日本福祉大学　特任教授　　千頭　聡<br>ＮＰＯ法人　ぱれっと　副理事長　　戸田　愛<br>ＮＰＯ法人　半田市観光協会　事務局長　　榊原　宏<br>ママのサポートリング　　伊藤　里香<br>生涯活躍のまちアドバイザー　　池田　美恵子<br>一般社団法人 SDGs　design　代表理事　　曽根　香奈子<br>半田市社会福祉協議会　事務局長　　小野田　靖<br>元半田市区長連絡協議会　会長　　藤牧　実<br>＜議題関係課＞<br>環境課：課長　太田　敦之、深川　芳行<br>学校教育課：課長　内藤　誠、副主幹　渡辺　富之、主査　羽根　弘<br>図書館：館長　齋藤　政樹 |
| 事務局 | 市民協働課　課長　藤井寿芳、主幹　竹内雅香子、副主幹　鳥居ひとみ、中川雅仁 |
| 要旨録 | |
| １．議題 | （１）チャレンジ 2030 の協働の視点による意見交換について<br>①「食品ロス削減」：環境課 |
| 事務局 | （意見交換に関する補足説明） |
| 環境課 | （チャレンジ　2030「フードドライブや家庭での食品ロスダイアリーの活用推進により、食品ロス |

| | |
|---|---|
| | 削減に取り組みます。」に関する説明。） |
| 委員長 | 担当課に質疑や提言など発言をお願いします。 |
| 委員 | ごみ減量推進懇談会、３Ｒアドバイザーへの説明会など、各種団体と意見交換を活発に行っていただくと良いのではないでしょうか。また、広報をして終わりではなく、食品ロスダイアリーを全世帯に配布するなど、実際にアクションをすることも考えていただければと思います。<br>また、市民意識向上のため、市内フードバンクと連携してもらうことも有効だと思います。 |
| 委員 | 社会福祉協議会と市内のファミリーマート 15 店舗でフードバンクの連携を 6 月から開始し、これまでに 26Kg の取扱い実績となっています。<br>ごみの排出量を減らすという点で言えば、半田市では生ごみ乾燥機の購入補助をしていますが、近隣市町では生ごみを家庭から出さず、家庭菜園に使ってもらうよう、消滅型生ごみ処理器に補助をしているところもあります。暮らしの在り方は様々であり、ごみを出さないことが楽しみにつながる方法として、インセンティブの形もさまざまあっても良いのではないでしょうか。<br>耕作放棄地問題や市民農園などの活用にもつなげられそうに思います。 |
| 委員 | 食品ロス削減は家庭、事業所のどちらをメインターゲットとして考えていますか。 |
| 環境課 | 家庭での食品ロス削減をメインと考えています。資料の食品ロスダイアリーは環境省からの出典で、市民に自分事として捉えてもらうため、食品ロスが経済的損失（家計ロス）につながっていることを実感してもらうことを想定しています。<br>事業系の食品ロス削減については、飲食店での食べ残し削減のため 3010 運動（最初 30 分と最後 10 分は食べることを推奨）を展開しています。 |
| 委員 | 市で携帯アプリを開発することは難しいと思いますが、もっと簡単に食品ロス削減にアプローチできるような仕組みがあると良いと思います。先進的な事例の調査はされていますか。 |
| 環境課 | 家庭での食品ロス削減は広報、啓発にとどまっているところが多いです。<br>事業系の食品ロス削減の取組としては、携帯アプリを活用し、賞味期限の近い食品を安価で提供する仕組みがあり、一定の認知はされているようです。 |
| 委員 | 自分の世代では、家庭での食品ロス削減は浸透しており、家庭よりも経済活動での仕組みに目を向けることの方が有効ではないかと感じます。<br>例えば、イベントや観光の場では飲食の提供がついて回り、一方で食品ロスも相応に発生しています。食品ロス削減のためにできることとして、例えば、出店募集の際に食品ロス削減に取り組んでいる事業者を優先するなど、考えていかないといけないと思いました。 |
| 委員 | イベントや観光の場では、天気によって仕入れた材料が消費できず食品ロスになります。製品になった物のロスと原材料のままのロスの両方を考えないといけないが、製品になったものであれば、社会福祉協議会に持ってきていただければ活用ができます。 |

| | |
|---|---|
| 委員 | 農家による野菜の産直販売での売れ残り野菜を飲食店が売価よりさらに割安で買い取る仕組みにした事例もありました。このような取組が広がるといいと思います。 |
| 委員 | 行政が、事業所や団体等をつなげる仕組みづくりやそれを管理することに注力することで確実に食品ロス削減が進むのではないかと思います。<br>ニーズ（提供する・もらう）のある人が、どこに行ったらよいかが分からないといった状況も解消しなければならない課題だと思いますので、環境課が橋渡し役として情報をつなぐことで成果も出るのではないでしょうか。 |
| 委員 | 市民の声を届けるというところでは、今回の資源ごみ袋の配布は反響が大きかったです。市民が直接、市より現物を還元されたということで、日頃、ごみに関心が薄い方でも関心が高まったと感じます。ダイレクトで市民に伝わる取組を、今後とも期待しています。 |
| 委員 | 環境課の過去の取組としてECO事業所の登録制度がありましたが、現在どうなっていますか。 |
| 環境課 | ECO 事業所の制度は現在もありますが、特に動きはありません。 |
| 委員 | 事業者の力を活用して、従業員である人（市民）にアプローチをかけ、協働という観点で事業所からの意見も取り込むと、より大きな啓発の力になると思います。 |
| 委員 | 環境課の ECO 事業所と企画課が所管している SDGｓ宣言企業と連携して欲しいと思っています。事業者が主体的に行政と協働して取り組み、具体的に動き出すことができれば、それなりの規模感で取組が可能になると思います。 |
| 委員長 | 環境課から意見等がありましたらお願いします。 |
| 環境課 | 担当の考えとして家庭での食品ロス削減に偏りがちでしたが、事業所へのアプローチの必要性をお伝えいただき、認識しましたので、改めて考えていきたいと思います。市民への広報、啓発については、引き続き少しでも効果のある啓発ができるよう環境課までご意見をいただけると助かります。よろしくお願いします。 |
| 委員長 | 個人への啓発は、賞味期限と消費期限の違いや、SNS を活用してフードバンクへの持込をPRしてみるなど、簡単にできることからすすめてもらうことも良いと思います。<br>環境課のお二方、お忙しい中をありがとうございました。 |
| １．議題 | （１）チャレンジ 2030 の協働の視点による意見交換について<br>②「キャリア教育」：学校教育課 |
| 学校教育課 | （チャレンジ 2030「キャリア教育について、コミュニティ・スクール制度などを活かし、これまでの学校・行政の取組に加え、保護者・地域の協力を促し推進力を高めます。」に関する説明。） |
| 委員 | 地域資源、観光資源を次の世代につなげていくことを考えたとき、色々なことに子どもたちに携わってもらいたいと考えています。団体として、各学校に協力を依頼する場面は多いものの、コ |

| | |
|---|---|
| | ミュニティ・スクール（学校運営協議会）にその情報は共有されておらず、団体がコミュニティ・スクールと連携できる場面がありません。コミュニティ・スクールに地域住民や保護者が関わるまでに至っていないのではないでしょうか。 |
| 学校教育課 | コミュニティ・スクール制度は 2019 年からスタートしていますが、学校により地域や保護者との連携の程度の差が大きいことも承知しており、今年度からは職員が学校運営協議会に入り、実際にどういうことをしているのか状況を把握しています。事例の共有を図り、各学校での活動の活性化につなげていきたいと考えています。 |
| 委員長 | 他市町の事例では、コミュニティ・スクールと言いながら学校の困りごとや労力を地域に要望して、地域がそれに応えるという関係に陥っているということも耳にしますが、その点はいかがでしょうか。 |
| 事務局 | 市内でもそのような関係となっている学校は多いのではないでしょうか。そのような関係性のところでは、団体が地域や保護者を巻き込み活動したいと思っても、団体と学校の範囲で止まってしまっている実態があるのかと思います。 |
| 委員 | 地域に力があると学校に求めるところが多く、ある学校では、学校運営協議会から学校への声が上がりすぎて、学校運営が難しい状況にあるようです。<br>また、コミュニティ・スクール制度を今後維持していく上で、担い手が減っていること、担い手の高齢化、さらに実際に小学校に通う子の親世代がこの制度に参画していないところが問題であると思っています。 |
| 委員 | 子どもが中学校を卒業し、一地域住民としての関わりだけになると、学校の情報は、ほぼ入ってこない状況になりました。地域で子育て支援に関わりたい方、学校を応援したい方は多く存在すると思いますが、そういった方に情報を届け、活かす仕組みづくりは、キャリア教育、コミュニティ・スクール制度を市として発展させていくために、検討する価値があると思います。<br>「キャリア」という言葉が特別なイメージもあり、PTA 役員含めた保護者に「キャリア教育」が浸透していないと感じます。<br>キャリア教育の理解を得ることで、地域のひとりとしてコミュニティ・スクール制度に参画する意識に繋がると思います。 |
| 委員 | キャリア教育の目指すところはとても良いと思いますが、幼保から小・中学校までで具体的に何をしているのか、何をしようとしているのかが分からず、また、PTA や地域が何をお手伝いすればいいのかわかりません。<br>また、コミュニティ・スクール制度は存在しますが、市民や団体が学校に参画するためのハードルは非常に高いと感じます。学校に関われる仕組みづくりは必要だと感じます。 |
| 事務局 | コミュニティ・スクール制度を持続的に実施するための問題点として、学校運営協議会の参加 |

| | |
|---|---|
| | 者が地域の役員など特定の人に限定されがちなところがあるように感じます。 |
| 委員 | 例えば亀崎地区では「KOO ジュニア」が地域の大人たちと一緒に活動する中で、生き方も含めて様々なことを学んでいます。学校教育課でも、学校運営協議会という枠に捉われず、市内の様々な地域活動を把握していただき、学校へ提案していった方がいいのではないでしょうか。 |
| 委員 | 先ほど労力の提供に陥っているという話がありましたが、これが能力の提供を地域に求めるという形に変わっていくと、より学校教育課が目指す形に近づくのではないかと感じます。<br>教育の現場の限界を超えたことでの課題解決のために、スペシャリストの力を借りたいという学校の声を上手く地域に発信できれば、協力しますという方は多いはずです。その SOS を学校が勇気をもって発信できるかも鍵になると思います。 |
| 委員 | 事業所の立場から、コミュニティ・スクール制度への協力を申し出る場合、学校教育課からも各校のコミュニティ・スクールに働きかけを行うような仕組みは考えていますか。 |
| 学校教育課 | 学校教育課が間に入ることは考えておらず、実際には、学校に働きかけていただくことになります。何かを行うといった際の判断は、現場の校長が行います。 |
| 委員長 | 学校現場では校長の裁量が大きく、教育委員会や学校教育課が提案する事業も、実施の判断は校長に委ねられます。<br>まもなく、予定時間となりますが、学校教育課から意見等がありましたらお願いします。 |
| 学校教育課 | 本日のお話にもありましたが、学校を応援したい、関わりを持ちたいと考えてくれている方は、とても多いという認識をもっています。そのような気持ちを大切に、うまく協力を求めていけるようにしていきたいと思います。 |
| 委員長 | 学校の立場では、応援してくれる気持ちはとてもありがたいが、学校の考えとは違うスタンスでの協力は望んでいないということも事実です。学校を応援したい思いを持った方と地域側が調整していただき、話をしていくことも必要かと思います。<br>学校教育課のお三方、ありがとうございました。 |
| １．議題 | （２）協働事業評価について<br>①「あかちゃんとしょかん」：図書館 |
| 事務局 | （協働事業評価に関する補足説明） |
| 図書館 | （「あかちゃんとしょかん」に関する事業説明） |
| 委員長 | 協働事業評価については、現在行われている事業を、どうすればさらに良いものとなるのか、アドバイスをしながら評価するという趣旨になります。 |
| 委員 | 読み聞かせ事業としては、市内２か所の図書館でのみの実施ですか。 |
| 図書館 | 図書館以外でも、子育て支援センターや児童センターで実施しています。また、これ以外の施 |

| | |
|---|---|
| | 設からも依頼があれば、その都度実施しています。 |
| 委員 | 亀崎福祉センターでは、高齢者や多世代交流を目的とした「子ども交流会」を実施しているので、その中で読み聞かせをお願いしたいです。 |
| 委員 | 現場の声をお伝えしたいと思います。「あかちゃんとしょかん」の事業の実施内容は、ブックスタートのすすめとして、読み聞かせや絵本の紹介、図書館の利用促進ですが、それ以上に重大なのは、子育て支援におけるアウトリーチの最初の一歩だというところです。絵本というツールを使って、地域に子育てのサポートをしてくれる方がいるといったことや、読み聞かせが親子の関係性を育むために重要であること、図書館は赤ちゃん連れでも安心していける場所だということなど、様々な情報を提供しています。<br>協働シートの協働のゴールに記載されている「絵本の読み聞かせを通じて、子育てを支援する」は、非常に大切な一文と考えています。もう一つのゴールとして図書館側の目標が掲げられていますが、協働相手の思いとは異なるため、目標やゴールの考え方などは、協働相手と互いにすり合わせが必要だと思います。 |
| 委員 | 事業評価をしないといけないという視点で見たときに、貸出券登録率 60%を達成するためには協働相手が 1 団体のみで充足できるのでしょうか。現在の運営の問題点や改善点はどのように考えていますか。例えば、3 か月児健診時だけのアウトリーチで足りるのかなど、ゴールに対する現状の認識を教えていただきたい。 |
| 委員長 | 貸出券登録率の現状値はどのくらいですか。 |
| 図書館 | 令和 4 年度の貸出券登録率は 51%でした。協働のゴールの欄に貸出券登録率を記載しましたが、ゴールとしている 60%という数字は、子ども読書推進計画上の数字であり、協働のゴールとしては不適切でした。 |
| 委員 | 協働のゴールの記載を見直していただき、団体側が間違った認識を持ち、事業に対する考え方の溝が深まらないようにしていただく方が良いと思います。 |
| 図書館 | はい。修正するようにします。 |
| 委員長 | 協働のゴールの書き方については、協働事業全体の課題としても捉えられます。 |
| 委員 | 課題としてボランティアの増員を図るために養成講座の開催とありますが実施状況はいかがですか。また、運営体制の整備と事業の充実も課題として掲げていますが、関係団体を増やすなど考えていることはありますか。 |
| 図書館 | 養成講座は図書館が主体で実施しており、今年度は 5 名に受講いただき、ボランティアとして協働相手の団体に登録いただきました。まずは、現行の運営体制等をしっかり支えることが大切であり、現時点で関係団体を増やすなどは検討していません。 |
| 委員 | 過去 3 年間の平均予算額が 10 万円程度ですが、この事業を将来に亘って持続可能とする |

| | |
|---|---|
| | のであれば、もう少し予算額が積まれてもおかしくないと考えますが、いかがですか。 |
| 図書館 | 過去 3 年間はコロナ禍であったこともあり、養成講座が思うようにできていなかったこともあります。また、満足いただける額ではないかもしれませんが、団体に対し活動謝金としてお支払いしています。 |
| 委員長 | 団体に対する謝金のほかに、市の事業として行っているとするのであれば、活動者に対する交通費など最低限の費用弁償の計上があってもいいのかもしれません。 |
| 委員 | 経緯と背景をみると、本事業の元々の趣旨は、より良い子育てに向けた支援の充実であったと推察します。団体との協働により、良いものに進めることも必要ですが、今後は子ども育成課との連携を図るなど、庁内の関係課との連携も必要なのではないでしょうか。 |
| 委員長 | 現状で、庁内の関係課とは協働しているのでしょうか。 |
| 図書館 | 現在の認識では、図書館の事業として３か月児健診時に時間と場所を使わせてもらっているといった状況で、健診の邪魔をしないように事業をさせてもらっているという感じです。<br>３か月児健診のプログラムに組み込んだり、連動したり、というところまでは至っていません。 |
| 委員長 | 経緯と背景を読むと、子育てネットワーカーが保健師からの依頼を受けて、という記載がありますが、もともと図書館側から是非とも実施したい、ということだったのでしょうか。 |
| 委員 | 協働相手の担当者から聞いた経緯は、赤ちゃん訪問制度が開始される前、生涯学習課管轄の子育てネットワーカーが子育て応援としてブックスタートができないかと保健センターの保健師に掛け合い、保健センター側から健診の待ち時間に、絵本の読み聞かせの大切さとともに子育て情報・地域の情報の提供を依頼されたところからスタートしたものです。赤ちゃん訪問が始まったことに伴い、一旦事業終了となりましたが、思いのあるネットワーカー達が当時の図書館長に掛け合い、他市町を参考に、子育て支援のアウトリーチとして、読み聞かせ事業でできることを考え、団体を立ち上げ現在に至ります。 |
| 委員 | 子育て相談課、子ども育成課や健康課との協働は、検討されていますか。あくまで、図書館と団体との協働事業という枠組みですか。 |
| 図書館 | 今のところは、図書館と団体との協働となっています。 |
| 委員 | ３か月児健診という親子にとって大事な健診に、この事業を組み込めたのはひとつの成果だと考えています。一方で、読み聞かせには母子保健において大事な要素が含まれていることや、協働相手が考える事業の意義が、関連所管課に理解、共有されていないと思います。行政内で関係する子ども育成課、子育て相談課、学校教育課、生涯学習課がこの事業を理解して、協働し、サポートすることで、受診率が高い３か月健診時にすべての親子に向けての子育て応援として、大きな成果につながると思います。 |
| 委員 | 行政内の協働をもっとしっかり進めて欲しい。この事業以外でも、課の縦割りで事業を考えて |

| | |
|---|---|
| | いるのではないかと思う場面に出くわすことがあります。支援される親子の視点に立ち、庁内で連携して事業にあたって欲しいと思います。 |
| 委員長 | この事業が現在持っている課題は、図書館だけで考えるものではなく、子ども育成課や子育て相談課などと「あかちゃんとしょかん」事業の意味や意義を共有して考えていかないといけないもののようです。このままでは現場のボランティアにしわ寄せがいってしまいます。 |
| 委員 | この事業の目標やゴールについて、団体や関係課としっかり目線あわせしておくことが、より良い展開に向けて重要になると思います。 |
| 委員 | 議論を聞いている中で、関係課が協働に対して閉鎖的な印象を受けます。 |
| 委員 | 半田市における保健センターでのアウトリーチの難しさを感じています。健診受診率が９割以上の３か月児健診時に、地域の支援者が子育て支援情報をアウトリーチで提供することの重要性が、担当課や関連所管課にもっと伝わると良いと思います。今回の協働事業評価をきっかけに図書館と団体が協力して、しっかり意味や意義を伝えていかなければいけないと思います。 |
| 委員長 | 委員より様々な意見が出ましたが参考にしていただき、ぜひ、「あかちゃんとしょかん」をより良い事業にしていただけたらと思います。図書館長、本日はご出席いただきありがとうございました。 |
| １．議題　（３）委員会に関する意見交換について | |
| | （時間の都合につき省略、後日事務局が集約） |
| ２.その他　（１）今後のスケジュールについて | |
| 事務局 | 【資料に基づき説明】<br>次回８月７日は、当初 16 時までとしておりましたが、議題の都合上 16 時半までとさせていただきますので、よろしくお願いします。 |
| 委員長 | チャレンジ 2030 の議論につきましては、チャレンジ項目であり現在、実施できていなくてもいいわけですが、担当課として進めていく上での課題をもっと明確に出していただくことで、この委員会としてより具体的に提案できると思います。この点につきましては、事務局も課題としてください。また、委員会の進め方に関してご意見があれば、次回でも結構ですのでご意見ください。よろしくお願いします。<br>それでは、本日の委員会を終了します。 |